

## Ⅱ—2 富士通 netCommunity

調査先	: 富士通 netCommunity
住 所	: 東京都千代田区内幸町1丁目3番1号 幸ビル1階
開催日	: 2014年1月24日
参加者	: 6名
記	: 中村 良*

### 1. はじめに

当委員会では、注目技術の技術開発やビジネス展開を行っている研究所・企業の調査、見学を行い、会員会社に広く紹介していく活動を行っている。

今回、富士通 netCommunity を見学する機会を得た。富士通は ICT（情報コミュニケーション技術）をベースに様々なソリューションを提案し続けている企業の一つであり、netCommunity は将来を見据えた課題を顧客とともに解決することのきっかけを創出する場と言える。



Fig.1 プレゼンテーション・ルーム

### 2. netCommunity について

netCommunity は 2000 年 12 月に開設され、2007 年 5 月に移転・リニューアルされた。現在は内幸町駅前に位置する。富士通の施設紹介より引用させていただくと「社会のイノベーションによって実現する、豊かで活力のある将来社会の姿をデモンストレーションでご紹介すると共に、その実現のために必要な社会のしくみの変革や新たな ICT の利活用についてご提案する」施設である。

### 3. 見学内容

netCommunity の展示内容は、①ビジョンデモ、②コンセプトデモ、③ソリューションデモ、④ビデオライブラリーの 4 つに分類される。今回、多種多様な展示内容の中からデモや展示物を厳選して解説していただいたので、以下に紹介する。

#### 3.1. 山本社長のメッセージ

ICT は万能ではなく、あくまでツール。時代とともに進化する。かつてはコンピューターセントリックだったものがネットワークセントリックになり、今はヒューマンセントリックの時代。人の生活から生じるデータの海から使えそうなデータを抽出し、価値のある

\* 技術調査小委員会委員

形に変換し、生活にフィードバックする。国や地域、業種や業態を超えて、お客様とともにイノベーションを起こすことにより、豊かな社会の実現につなげたい。

### 3.2. ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティを実現するビッグデータの活用

従来の、情報管理の ICT から人の生活や社会にフォーカスした ICT へ。例えば、SNS のメッセージのキーワードと場所・時間等の情報を収集し、分析し、生活に役立つ形でフィードバックする。このようなサービスを Convergence Service と呼び、想定される活用シーンとしては、健康分野における糖尿病のリスク予測や、オフィスにおける消費電力調節、デパートにおけるデジタルサイネージの閲覧状況とその後の行動予測、工場現場における装置の遠隔操作等がある。

### 3.3. ソーシャルイノベーションを推進するオープンデータの活用革新！「Linked Open Data (LOD) 活用基盤」

LOD とは機械が判別、処理しやすいデータの形のこと。米国、英国ではオープンデータが流行りつつあり、LOD がソーシャルイノベーションを起こすことが期待されている。ソーシャルデータを第一の波とすると、センサーデータが第二の波、オープンデータが第三の波と位置づけられる。これまでデータセット化と活用基盤の整備を行ってきたが、今後それを開放し、LOD の利用を推進していく。

### 3.4. 夢・農・情 2 ～ICTを活用した「農業の産業化」の実現～

社員が実際に農家を訪問し、農作業を体験することで得られた気付きに基づき、ICTにより「経営」・「生産」・「顧客」を見える化した。「経営の見える化」では、発注状況やサイズ別の分別、ICチップを利用した配送、型くずれした農作物は加工品に回す等、無駄を削減すると同時に売上管理、コスト管理が出来る。

「生産の見える化」では、圃場カメラやGPSセンサー、水位センサー等により圃場情報を収集したり、タブレ

ット端末を用いて農場とオフィスとをつなぎ、農作物の異変をデータベースで検索し、対応を指示したりすることが出来る。「顧客の見える化」では CRMate というアプリケーションにより顧客のニーズを把握出来るようになる。このようなシステムの活用により、畑の回転数が改善し、利益が 1.7 倍になった事例もある。

### 3.5. 次世代ワイヤレス給電技術

ワイヤレス給電技術の主な方式としては電磁誘電方式 (Qi 規格等) と磁界共鳴方式があり、富士通では後者の方式の開発を行っている。給電距離を設計により変えられたり、一度に複数の端末に給電出来たりするという特長を持つ。富士通では設計を早く出来るアルゴリズムを開発し、設計時間を 1/150 に短縮することを可能にした。



Fig.2 デモンストレーション・ゾーン

### 3.6. スマートフォンで安全・エコ運転支援「TRIAS/TR-SaaS for Smartphone」

スマートフォンのアプリを用いて、位置情報を GPS 信号から収集し、Eco & Safety 指数をメールで知らせたり、実車速と理想車速とのギャップの大きい場所を特定し、分析したりする。今後はクラウドでデータを分析し、エコ運転を推奨したり、渋滞予測をしたりすることを検討する。

### 3.7. 子ぐま型ソーシャルロボット

鼻の部分にカメラが埋め込まれ、人の笑顔も検知することが出来る子ぐま型のロボット。気分が二軸・四

象限のグラフ上にプロットされ、その位置に応じた反応が返ってくる。人に癒やしを与える存在であり、デイサービスで試験もされている。

### 3.8. AR（拡張現実）を活用した運用・保守作業の革新 「FUJITSU Software Interstage AR Processing Server」

リアルと保守運用情報をARによってつなげる。具体的な例として、水道管の器具にマーカーをつけ、ICT、クラウドを通して、タブレット端末上に作業手順やこれまでのメンテナンス情報などを、画面上に映っている水道管にオーバーラップさせて表示させることが出来る（データは事前にダウンロードしておくことも可能）。特長は、多少汚れても大丈夫であること、その場で端末に入力出来ること等。ARマーカー以外のものもマーカーとして登録することが出来るので、例えば河川の距離標をマーカーとして登録することで、洪水情報を表示させることも出来る。

### 3.9. 番号制度で変わる生活と社会

#### 社会保障・税の番号

制度が2013年5月24日に可決された。今後、2015年に番号通知、2016年に番号利用開始、2017年に情報連携が開始される。そうすると、社会保障分野では機関間での番号照会が出来るようになり、サービスのスピードアップが期待される。自治体での番号利用におけるポイントは次の4つ。①健康管理ライフログ…例えば、母子手帳の情報をずっと参照することや、プッシュ型のお知らせを受け取ることが出来るようになる。②地域包括支援・防災対応…要支援者をリスト化し、支援が必要な場合に活用することが出来る。③ボランティア・リサイクル…例えば、ボランティア活動を行うことによって「マイ・ポータル」にポイントを貯めて、それを自分で使用したり、他の人にプレゼントしたりすることが出来る。④官民連携…例えば、引越し時の一括情報変更が可能となる。業務効率向上による経費削減が期待される。

### 3.10. ボディエリアネットワークの実用化に向けた富士通の取り組みと新たなサービスの実現

現在、パブリックコメント中で、総務省とプロジェクトを行っている段階。近距離通信技術を用いることにより、例えば重病患者と医療機器をつなぐケーブルをなくし、介護がしやすくなる、リアルタイムのデータ収集が容易になる、等の効果が期待される。通信規格の統一においては、富士通は早期から参画していた。

## 4. おわりに

ニーズや課題の多様化、そして情報の急速な増加が進む社会環境において、ICTを進歩させ、ニーズと融合させていくという取り組みは理にかなっている。

今回、富士通 netCommunity を訪問し、実際にプレゼンテーションを聴講したり、デモを見学したりすることで、ICTを活用し、業種、業態を超え、顧客と共に豊かな将来を創っていききたいという富士通の姿勢を実感することが出来た。

### 【見学内容に関する補足情報】

以下に、デモの内容について詳細な説明が記された、富士通のウェブサイトを一覧して紹介する。

□ヒューマンセントリック・インテリジェントソリューションを実現するビッグデータの活用

[http://jp.fujitsu.com/solutions/bigdata/?ss\\_ad\\_code=solutions\\_bigdatatop](http://jp.fujitsu.com/solutions/bigdata/?ss_ad_code=solutions_bigdatatop)

□ソーシャルイノベーションを推進するオープンデータの活用革新！「Linked Open Data 活用基盤」

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2013/04/3-1.html>

[http://jad.fujitsu.com/exhibit/ceatec/pdf/id\\_13j.pdf](http://jad.fujitsu.com/exhibit/ceatec/pdf/id_13j.pdf)

□夢・農・情2 ～ICTを活用した「農業の産業化」の実現～

<http://jp.fujitsu.com/solutions/cloud/agri/>

□スマートフォンで安全・エコ運転支援

「TRIAS/TR-SaaS for Smartphone」

<http://segroup.fujitsu.com/logistics/product/delivery/triastr-saas-s/>

□子ぐま型ソーシャルロボット

<http://jp.fujitsu.com/journal/strength/technologies/201004.html>

□AR(拡張現実)を活用した運用・保守作業の革新  
「FUJITSU Software Interstage AR Processing Server」

<http://interstage.fujitsu.com/jp/arprocessserver/>

□ボディアエリアネットワークの実用化に向けた富士通の取組みと新たなサービスの実現

<http://jp.fujitsu.com/group/labs/activities/human-centric-computing/pan-and-ban.html>

以上

禁 無 断 転 載

2013年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」“Ⅱ-2”部

発行 2014年6月

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

技術委員会 技術調査小委員会

〒108-0073 東京都港区三田三丁目4番10号 リーラヒジリザカ7階

電話 03-6809-5010(代表) / FAX 03-3451-1770